



ガスコンロ火災にご注意を！

安全・安心まちづくり
青森地域広域
事務組合消防本部

ガスコンロ火災は令和元年全国の火災原因第3位であり、青森消防本部管内でも上位の火災原因です。身近で使う裸火には常に火災危険が潜んでいます。少しの注意で火災は防ぐことができます。

◆事例1

使用後の天ぷら油を処理しようと、凝固剤で固めた油を溶かすため鍋に火をかけたが、そのことを忘れて外出し天ぷら油から出火
火災被害 台所の外壁が焼損

※ポイント

調理中にその場を離れる時に火を消すことが大切ですが、**過熱防止装置**(右写真参照)が搭載されているコンロを使用することも予防につながります。一定の温度まで上昇すると自動でガスの供給を止めるなどの安全装置です。

自分の家のコンロはこの装置が付いているか確かめてみましょう。



過熱防止装置



◆事例2

魚焼きグリルで魚を焼いていたところ、グリルの中から煙と炎が立ち上がった。
火災被害 ガスコンロ一部焼損

※ポイント

グリル内が清掃されていないと、ガスの火がグリル内に付着していた油に着火することがあります。
コンロ周りも含めてこまめに清掃するよう心がけましょう。

◆事例3

調理中にコンロ奥にある調味料を取ろうと右腕を伸ばしたところ、使用中のコンロの火が服の袖に着火した。

火災被害 右腕2度の熱傷

※ポイント

毛羽立った洋服は、着火しやすい性質があるので、調理中は防炎性のアームカバーをつける。

鍋底が小さいと、炎が鍋底からはみ出るので、鍋の大きさに合った火力で使用する。

